



“いちごいちえ”のおもてなし



はじめに

宇都宮市の西隣、北には日光連山を臨む北関東の中央部に位置する栃木県鹿沼市。市域の約7割を山林で占めており、群馬県と県境を隔てる市西北部の奥深い山々を源として、黒川、大芦川、荒井川、南摩川、粟野川、思川、永野川と幾筋もの清流を擁し、下流ではこれらの流れが思川を形成しています。

水と緑に恵まれたこのまちは、東京からはおよそ100km圏内にあり、東北自動車道、北関東自動車道などの高速道路や、JR日光線、東武日光線などの鉄道網により、交通アクセス性にも優れています。

日光へと続く街道「例幣使道」が市中心部を貫く宿場町で、交通の要衝として人の流れと共に栄えてきました。



東照宮の造修営に関わった職人が多く移り住んだとも伝えられ、その技を今に伝える組子細工をはじめとした建具の製作など、木工業を中心に発展を遂げてきました。

思川開発事業と上下流交流

市内西部の上南摩町は、思川開発事業・南摩ダム建設の建設予定地です。ダムの完成はまだ先ですが、ダムの水を使う予定の自治体に住む親子と上南摩町住民との「上下流交流」はすでに始まっています。地元住民が講師となる「そば打ち体験」や、水資源機構によるダム予定地の見学会などを通し、水源地への理解と水の大切さを感じてもらおう事業を行っています。



いちご市宣言！

豊かな水は、様々な農産物を育ててくれます。その中でも、「かぬまブランド」として認定され、「市の果実」としても制定されているのが「いちご」です。

栃木県は全国一の「いちご王国」ですが、その中でも鹿沼市は、生産の歴史も古く、またその品質は「日本一」との市場評価を得ることも実は多

いのです。

そこで鹿沼市では、地域の魅力を発信するシティプロモーションを推進していくにあたり、市のイメージアップのためのシンボルを「いちご」、キャッチコピーを「いちごいちえ」として、プロモーションを展開しています。

そして、全国みなさんに「いちごのまち」として覚えていただき、認知度とイメージをさらに向上させていくため、「いちご市」を宣言しました。

みなさんも、いちご市自慢の「いちご」をぜひ味わってみてください。



「まちの駅」設置数日本一!の「おもてなし」

「いちごいちえ」のキャッチコピーは、いちご市かぬまでの素敵な出会いやふれあいを大切にする、私たちの「おもてなし」の気持ちの象徴です。この「おもてなし」の実践のひとつが「まちの駅」です。

鹿沼市では、訪れた人誰もが無料で休憩ができ、地域の情報を入手できる「まちの駅」の開設を支援し、市内交流人口の拡大を目指しています。現在、市内に開設された「まちの駅」は実に105カ所。その数は日本一を誇っています。

鹿沼市内のまちの駅のほとんどは、事業所や商店などが自主的に開設しているもので、訪問してくれた人が「楽しく回遊できるまち」になるよう、市民が主体となって様々な取り組みを行っています。

なかでも、キーステーションである「まちの駅新・鹿沼宿」は、地域情報の発信拠点、市内を網羅する定期路線バス・リーバスの発着点、「かぬまブランド」商品をはじめとした特産品や地場農

産物などの販売拠点、また、名物「鹿沼そば」店などを兼ね備えた複合施設。トイレ休憩や食事、お土産購入など、まずは一度立ち寄っていただくことから観光誘客を図っています。



ユネスコ無形文化遺産 「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」

水が育む豊かな森林資源。鹿沼市は「木のまち」でもあります。豊かな森は森林認証[※]を受け、林業や製材業、建具などの製造業が盛んで、江戸時代からの伝統的な木工技術が伝わっています。

また、国の重要無形民俗文化財に指定され、ユネスコ無形文化遺産にも登録された伝統行事「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」に登場する彫刻屋台は、江戸時代からの伝統を今に残す精緻な彫刻技術が見もので、鹿沼市を代表する文化財となっています。

毎年10月に開催される「鹿沼秋まつり」で披露されるこの行事には、多くの観光客が訪れます。鹿沼市は、「いちごいちえ」のおもてなしで、みなさんのご来訪をお待ちしています。



[※] 独立した第三者機関が一定の基準等を基に、適切な森林経営や持続可能な森林経営が行われている森林又は経営組織などを認証する取り組み(林野庁ホームページより)